

争

論

一九八九年六月、中国軍が民主化要求運動を武力で弾圧し、多数を殺傷した天安門事件から二十年。中国は未曾有の経済の高成長を達成したが、公正な社会を築くため民主化を求める庶民の声も根強い。果たして中国は民主化できるのか。

◆中国は民主化できるか◆

中国民主化の見通しは。一元的な政治では各レベルの意見をくみ上げられない。

「共産党の次期指導部の十年間の任期中、つまり二〇一二年までには抜本的な一歩を踏み出すだろう。農民や大衆の反乱という下からの革命ではなく、党のインシテチフによって、一党支配の現体制から民主主義的な政治体制に移行する『静かなる革命』が起きる」とその理由は。

「官僚腐敗や所得格差の拡大、社会的対立の先鋭化などの問題が深刻化するにつれ、現体制を改めようとする圧力が保革陣営から高まっており、共産党は政治改革に本気で取り組まなければならない」ところまできた。富裕層から中産階級、貧困層まで社会は既に多元

中国の民主化は。中国にとって最も重要な問題は民主化だ。わたしもそれを希望するが、残念ながら実現は難しい。なぜならかつての趙紫陽氏(元中国共産党総書記)のようにな民主化に前向きなリーダーが登場する可能性は小さいからだ。習近平、李克強両氏ら次期指導部の中核となる人たちが自ら民主化に踏み切るとは考えにくい。一度権力を握ると手放さない。

天安門事件以来の民主状況は。「最高実力者、鄧小平氏や江沢民・前党総書記兼国家主席の下で、民主化運動の芽は徹底的に摘まれ、中国の民主改革はほとんどなされないうままだ。一方で軍や武装警察部隊など民主化を抑圧する暴力装置が非常に強くなった。密告制度もある。開明的な胡耀邦(元党総書記)に近い共産主義青年団出身の胡錦濤・党総書記兼国家主席が登場した際にもかなり期待したが、今の中国に民主化の兆しは見えない」

農村部で選挙も行われているが。「共産党のおせん立てで

放政策を導入して以来、最大の危機に直面している。これまでの官製資本主義官有経済は限界にきており、持続不可能だ。民主化によって、これまでの資源の投入に依存する成長から、持続可能な成長メカニズムに転換する必要がある。既に利益を得た党内や周辺の人びとも民主化で既得権益を合法的に固定化できる」

「二〇一二年の党大会で胡錦濤総書記(国家主席)の後継指導部が誕生する。中核となると予想される習近平

「静かな革命」起る

呉 軍華さん(日本総合研究所 主席 研究員)



オロギーの信仰の頂点から幻滅に至った文化大革命を経験し『知識青年』として農村に下放された世代。時代の流れを読みとり、理想



中嶋 嶺雄さん(国際教養大学長)

リーダー不在、難しい

なかじま・みねお 1936年長野県生まれ。東京外大中国科卒、東大大学院修了。東京外大長を経て04年から現職。

締め付けはさらに強化

「共産党体制の崩壊論が出ているが、そう簡単には壊れない。いろいろ問題を抱えながら世界に脅威を

党が主導し 政治改革へ

「中国は力を持つ者へ絶

普遍的な価値、共有を

「中国は民主化に期待を寄せ、中嶋さんは難しいとみるが、中国の民主化が極めて重要だとの認識では意見が一致している。日本政

主義的で使命感の強いリーダーになる可能性が高い」中国の民主主義は欧米や日本と異なるのか。「理念は同じ。普遍的な価値がベースだが、その仕組は各国の事情や実践の仕方で異なる。日本の民主主義は米国とだいぶ違う。民主化の最初の一步は言論統制の撤廃、天安門事件の名誉回復、多党制の導入、結社の自由などが考えられる。中国に合う新しい仕組みづくりはその後の課題だ」

「民主化すれば混乱かどうかは、やり方次第だ。どういうプロセスでソフトウェアングさせるかを考えなければならぬ。一方、民主化しなければ安定を維持できるとの公式は完全に崩れた」

環境問題は。環境問題は民主化、人権と相関関係がある。中国当局者は環境問題の重要性に気付いてはいるが、全中国が工事現場の状態だ。もう簡単に元に戻せないほど環境破壊はひどい。民主化しなければ、環境問題の本質的な解決はない。地球温暖化についても今のままでは

◇ 第1日曜日に掲載 ◇

プレーイブ、野球部へ、図ることが、部内外の支、話はトン、野球教室は、不況で金を、くマッチし、一方、太ったのは、守備や打、連日、その練習、らに自分の、「THIN:、驚いた古、しい顔でい、「あいつは、はじか、たしかに、は見事に決、考える先、その大道は、選手の信頼を、変化があっ、親子野球教、が話題に上、「なんかイ、井坂が耳打、グラウンド、は、前宣伝を、古賀の作戦、